

(様式第4号)

上田市林業振興協議会 会議概要

1 審議会名	上田市林業振興協議会
2 日 時	平成30年3月16日 午後2時から午後4時まで
3 会 場	上田市森林センター 2階 会議室
4 出 席 者	飯田委員、大久保委員、倉沢委員、鈴木委員、中嶋委員、芳澤委員、赤堀委員、 芦田委員、大塚委員、小山田（八）委員、金井委員、金山委員、田島委員、 保母委員、小山田（秀）委員、塚原委員、上田地域振興局林務課千村課長補佐
5 市側出席者	中澤農林部長、高見澤森林整備課長、宮沢林業振興担当係長、 茅野森林整備担当係長、鈴木森林整備担当主査、米田森林整備担当主任、 宮下森林整備担当主事、田中林政アドバイザー
6 公開・非公開	☒ 公 開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍 聴 者	0 人 記者 0 人
8 会議概要作成年月日	平成30年3月20日

協 議 事 項 等

- 1 開 会（茅野森林整備担当係長）
- 2 あいさつ（中澤農林部長）
- 3 委嘱書交付
- 4 議 事
 - （1）正副会長の選出
会長 倉沢委員 副会長 田島委員 を選出
 - （2）報告事項
 - ①上田市林業振興協議会委員の任務について
 - ②上田市森林整備計画について
 - （3）その他
 - ①上小森林祭について
 - ②ジビエ振興について

以下質疑

（委 員）委員はどのような立場で上小森林祭に出席するのか。招待なのか一般参加としてなのか。

（事務局）上田市から後日招待状をお送りする予定。他には、地元自治会長も招待する。2年に一度なので積極的な参加をお願いしたい。

（委 員）以前、丸子地域でジビエ施設の建設の話があつて、地元の不同意により中止になったと記憶しているが、その後の上田市での取り組みはどうか。

（事務局）県内でジビエ加工施設は28施設ある。そのほとんどが中南信に集中している。東信地域では、2施設ある。小諸市のペットフード加工施設と立科町のペンション経営者が行っている施設。青木村の解体車実演も見学した。上田市としても講演会、料理教室を開催した。今後も上小地域連携して振興につながるよう、各市町村と情報交換をしていきたい。

（委 員）2年前の全国森林祭にも参加した。もっと植樹の本数を多くやりたかった。尾野山でも10月の台風で倒木がすごかった。倒れたところに植えないとまた土砂災害が起こる。せっかくならお祭り気分でない本当の植樹祭を希望する。

（事務局）できるだけ多く植樹していただけるよう検討していく。
- 5 林業セミナー
演題：これからの森林づくりについて
講師：上田地域振興局林務課 森林総管理士 千村広道様

以下質疑

- (委員) 国の森林環境税は、経営できない里山を市町村に預け、市町村から事業体に発注するという一番難しい事業にしか使えないのか。
- (講師) 現時点では、市町村による集積計画の作成、所有者へのアンケートなどの費用。また林業的に経営できないところについて、市町村が事業体に発注するが、そのシステムを円滑に機能させる為の経費として人材育成、担い手の確保も使途の対象。森林整備は補助金がないと成立しない産業なので、その他にも当てられればいいが現時点では林業の成長産業化、フィールドの確保の下支えになると思う。金額的に3倍になったので、途中でしくみは見直されてくると思う。
- (委員) 県の森林税について。里山制度利用区域を設定するときに区域内の全所有者に了解をもらわなければならないのか。面積制限はあるのか。利用区域の設定のハードルを高くしない方が入りやすいのでは。
- (講師) 区域面積は5ha。全所有者の同意は不要。整備機材の購入やソフト面も支援して、こうした地域を増やしていこうというもの。その地域を協力者と連携しながらやっていくと宣言すれば認定できる。調査や計画、同意書は認定後でよいので、地域のニーズに合わせた支援ができる。
- (委員) 区域内の所有者数の制限はないのか。例えば東山は市有林が多いが、上田の市有林だけで区域を設定することも可能か。
- (講師) 基本的には地域住民が自ら参加できる場所なので、公有林だけの区域は不可だが、東山のよう
- に地域に開かれた所もあるのでケースバイケース。
- (委員) 30年度の新規事業で、国庫補助金が入っているのはどれか。国庫補助金を使うと国の制度で事業を動かすことになるので。
- (講師) 防災・減災のための里山等の整備事業。事業の中で国庫補助金を使ってできる所はそれを活用し、国庫補助金の対象にならない所は森林税を単独で充てる。国庫補助の制度に左右されず、地域の実状にあわせ有効活用できる制度設計をしている。
- (委員) 地域振興局長の判断で使える予算や、松くい対策に特化した予算は。
- (講師) 全県で一つの予算の中で動いている。地方振興局独自で使えるのは地域振興推進で平成29年度は900万円。来年は、認証材のPRや松くい被害木のバイオマス利用につながる活用を考えている。
- (委員) 市民がわかるようなパンフレットを作ってほしい。個人所有の山で困っている人は沢山いると思うので。
- (講師) 知事からも要望(宿題)がでているので、観光、福祉などいろんな分野と連携しながら努力をしていきたいと思っている。
- (委員) 市でも庁舎建替があるので、木材利用を促進してほしい。
- (事務局) 市役所本庁舎、武石地域自治センター、丸子地域統合保育園の建替えがある。森林整備課でも各部署に木材利用のお願いをしている。サントミュージゼも内装に上田市市有林の材を使っている。植えて、育てて、使う時期に来ている。どんどん関係各所に話をしていきたい。
- (委員) 上田市は田も山もきれい。所有者が変わり転用して違う用途にしてしまったらすばらしい景観も壊れてしまう。管理が難しくなった所有者がこうした新たな森林管理を活用していけたら素晴らしい。今は税金で整備していて、産業として成り立っていない。産業として成り立つサイクルに持っていくための木材利用を考えていかなくてはいけないと思うが、ビジョンはあるのか。上田市の所有者不明の土地の現状はどうか。

(講 師) 千曲川上流地域で成長産業化構想がある。補助金で林業を維持するのではなく、低コストで木を切って高く売る。4つの目標を掲げている。地域内の素材生産量を16万から30万に、労働生産性一人当たり6㎡から10㎡になど。林業は年収400万の壁がありなかなか越えられないので、子育て世代が離れている。低コストで売れる形、信州カラマツなどいいものに地域で付加価値をつけて売り出す。安定した量を出し、価格交渉権を持ちながら低コストで出していく。林業の自立。産業という体をなしていないので産業として成り立たせていきたい。林業という生業で森林という公益的機能を高めるために森林整備に補助金が出ているので両輪としながらやっていきたい。

(事務局) 森林簿と法務局に届けられた登記簿と公図が合っていないのが現状。どのくらい合っていないかも未調査。所有者が変わった時には変更届を出してもらうので、わかるようになっている。所有者不明の土地については国の新しいシステムで分かるようになっていくと思う。

(講 師) 県の持っている森林簿と法務省の公図と市町村が固定資産税をかけるために持っているデータをリンクさせるために林地台帳をつくり来年市町村でやってもらう。今、縦割りで持っている情報を行政の中で連携して一つの台帳として整備し、所有者を確認しながら譲与税を活用して行っていく。今の代の方がいなくなってしまうと分からなくなってしまうので先送りできない課題として取り組んでいきたい。地元の方々にも協力をしていただく必要がある。大体1/4は出来ている。

6 閉会 (茅野森林整備担当係長)